

令和2年12月25日

U-net 通信令和2年12月号

特定非営利活動法人 地球環境共生ネットワーク
理事長 比嘉照夫
〒105-0014 東京都港区芝 2-6-3 三宅ビル 4階
電話：03-5427-2348 FAX：03-5427-5890

平素はU-netの活動にご尽力頂いておりますこと改めて感謝申し上げます。

U-net 通信令和2年12月号をお送りいたします。

新型コロナウイルスの全国的な感染拡大のため3月から延期を重ねていた令和2年度理事会及び第21回通常総会は12月11日に会員の皆様のご理解とご協力のもとオンライン開催することが出来ました。ありがとうございます。

令和3年度理事会及び第22回通常総会は令和3年3月に今回と同様にオンライン開催することを予定しています。

本格的な冬の到来を迎えようとしています。引き続きEMをあらゆる場面で空気や水の如く徹底して活用することを推奨します。

敬具

記

資料1:「善循環の輪」通信第360号 比嘉照夫

資料2:「第22回EM技術懇談会、リモートにて開催」奥本秀一 (EM研究機構)

以上

新型コロナウイルスパンデミックによって、これまでの U ネット活動は変更せざるを得ない状況となっています。U ネット通信の取材もままならないため、会員の皆さまへの情報提供が遅滞しています。その代替として、「善循環の輪」通信で補足したいと考えています。U ネット活動をより充実するためには、会員各自の EM 力を向上させることが肝要です。今回紹介する本は、その虎の巻でもあり、応用無限の情報が満載されています。

10 月の福島県での EM 技術懇談会を WEB 会議で行いました。事前に地域の情報や質問等を準備して、質疑応答や意見交換に時間を取ることができました。

福島の皆さんのなかには、今回紹介する本の中にある技術をすでに実行されている例もあり、WEB 会議でも EM の最新情報を伝えることが可能となりましたので、このような方法で希望する地域の会員の要望に応えたいと思います。

最新の EM 実践書 野本ちずこ著「微生物さんのパワーを引き出すのはあなた」(パブフル社)

去る 8 月 15 日、表記の本が出版されました。終戦の日の 8 月 15 日には様々な思いが込められていますが、日本の再スタートの起点です。この本も様々な EM 情報を乗り越えて EM の真髄である、量子力学の応用の入門書でもあり、「EM 生活」に必要な基本情報が満載されています。

EM を知っている人にとっては「極めて有難い情報源」であり、個々人や社会の EM 力の向上に必要不可欠な本です。また、初心者も興味のありそうな箇所からパラパラめくってもおもしろく、引き込まれてしまいます。



EM が広まり始めた初期の段階では、化学肥料や農薬の代替技術として、良質の EM 活性液を作り、土壌を含め環境中の有用微生物を安定的に優占することから始まりました。このレベルは、従来の微生物学の応用の限界突破的世界を拓きましたが、様々な情報が集約されるに従い、その機能は、EM の持つ抗酸化力と非イオン化機能と、有害なエネルギーの無害化および有用化に至り、究極的には、放射能の消滅等を含む原子転換を行っていることが明らかとなりました。

従って、EM 技術は、量子力学による波動の応用に原点を有することが明確になりました。この本の真骨頂は、素人にもその応用が日々楽しく実践できることであり、頂点は無限ということに尽きます。

ただ、この世界は、マジカルとかオカルトとして誤解される面もありますので、私が監修者として量子力学の応用に関する現実と心得を追補しました。この本は正に、「微生物さんのパワーを引き出すのはあなた」なのです。すなわち、EM は万能ですので、効果を出せなかった場合は使った人のレベル (EM 力) が低いことを意味し、その現実を深く反省し、EM に責任を求めてはなりません。

私は常々、EM を上手に使いきれずに、EM に責任追及する人は悪い人と決めています。この本は、そのような人でも良い方向に導いてくれる力があります。この本の活用によって、皆さまの EM 力が格段に向上することを期待しています。

比嘉照夫

第 22 回 EM 技術懇談会、リモートにて開催

2020 年 10 月 17 日、福島県二本松市勤労者研修センターにて第 22 回 EM 技術懇談会をリモートにて開催しました。当初、比嘉教授には現地にお越し頂く予定だったのですが、沖縄県、福島県およびその経由地である東京都の新型コロナウイルスの感染拡大の収束が見通せないことから、比嘉教授がおられる沖縄と二本松市の会場をインターネット回線をつなぎ、懇談会を開催しました。

尚、会場の定員および感染予防を考慮し、今回は福島県内の復興推進 EM 活用モデル事業参加団体の方々を中心にお声がけさせて頂きました(県外の方々のご要望に応えられず申し訳ございません)。

当日は会場の感染予防対策を十分にした上で、15 団体 27 名の皆様にご参加頂きました。始めに、各団体様より活動紹介がありました。その概要を以下に記します(順不同)。

- 社会福祉法人あおぞら福祉会菊の里様は、障害者の方達と一緒に EM 団子や EM 活性液を製造し、地元の県立公園の池や農業用ため池の浄化活動を実施(EM 団子を合計で 9000 個投入)、また市内の小中学校 10 校に EM 活性液を提供している。
- つきだてエコ暮楽部様は、10 年以上にわたり EM 活性液の学校プールへの投入(春・秋)や公共施設への無償配布を行っている。また、町の宿泊施設や防火水槽への投入も新たな取り組みとして始まっている。
- 霊山 EM エコクラブ様は、地域の中心を流れる河川への EM 活性液や EM 団子の投入活動を継続している。また、町の文化祭等での展示や活性液の配布等を実施し、啓蒙活動を行っている。
- NPO ヴィヴィドリーサポートセンター様は、放射能で汚染された福島の河川浄化のためにと仙台の方からのご寄付を活用し、国内各地からの EM 団子の提供と同慶寺様のご協力も頂きながら河川浄化活動を実施しており、今年で 3 年目の活動になる。
- NPO 法人りょうぜん里山がっこう様は、大石 3 ちゃん倶楽部という地域の農家仲間を組織し、地元量販店 5 店舗に朝採り野菜を出荷している。今年 4 月より毎月 1 トンの EM 活性液を培養し、毎月の勉強会の際に会員に配布をしている。
- エコクラブだて様は、放射能で汚染された伊達市内の沼に EM 活性液を投入、水質改善も兼ねた活動を継続している。また、水稲、桃等の栽培にも EM ボカシや活性液を活用し、品質の向上に努めている。
- 瀧澤牧場様は、継続して牛糞や液肥に EM を活用し牧草地に還元しており、太陽光パネルにも EM 整流処理を施している。今年、更なる放射能低減化のため田圃に EM グラビトロン炭の施用を試みている。

- マクタアメニティ株式会社様は、AI 技術を活用した農産物の品質評価システムが評判となり、JICA からの要請でインドへの技術導入の予定があること、同システムが「2020 年版中小企業白書」に掲載されたことから様々な自治体からも問合せがあるとのこと。また、大規模水稲栽培農家やキュウリの専業農家への指導も継続して行っている。
- 石井農園様は、無農薬無化学肥料で EM 活用のキュウリやレタスを栽培し、直売所等で販売をしている。築地市場にも販売をしているがロットが小さいことから輸送経費が高くなってしまふ。今後、大規模農家に EM を活用してもらうためにも、販売先の確保と県内の様々な EM 農産物をトラック等で集荷し、東京の市場に卸すという仕組みづくりが必要ではないかと課題も提示された。
- 佐藤貞利様は、浪江町から福島市へ移住し、現在はわくわく EM 農園にて農業をされている。EM 活性液、EM ボカシおよび防草シートを活用し、雑草を利用した土づくりを実践されている。
- 福島 EM クラブ様は、農園での野菜の生産とともに、福島駅前のマルシェ等での販売を行っている。朝採りで新鮮、且つ無農薬であることから好評となっている。現在、17 軒の農家に EM 栽培の野菜・果物を提供頂いている。
- 丹野独学塾 EM クラブ様は、震災後より放射線量の軽減のため自宅内外での EM 活性液を活用している。昨年の台風 19 号の災害の折には支援活動の一環として EM 活性液の供給を行った。
- 大内果樹園様は、梨園において EM 堆肥や EM 活性液の土壌・葉面散布を行っている。また、整流ブロックを設置し整流・結界処理を行った。周囲では黒星病が大発生したが、同園では抑制効果があったと実感している。
- 郡山 EM グループ様は、定期的に EM ボカシ I 型・II 型の製造、廃油石鹼やオリーブオイル石鹼づくり等を行っている。新型コロナの影響により例年行われている地域公民館での文化祭や町内会のお祭りが中止となり、EM 商品の販売や活動を紹介する機会がないのが残念である。
- 金山自治会「EM の広場」様は、下水道が敷設されていない金山地区の排水が河川や海の汚染になっていたため、15 年以上前から EM 活性液や EM 団子の投入活動を実施。現在は、月に 2 回会員が集まり、EM 活性液の製造と同地区の側溝等 47 カ所から EM 活性液を放流する活動を継続している。

次に、比嘉教授よりご講演を頂きました。

福島での放射能汚染対策は基本的に解決したことから、次のステップとして福島県を善循環的自然農法の世界的モデルに発展させる取り組みを開始していること。

新型コロナウイルス感染拡大下で皆が集う活動は制限をされているが、こういう時こそ個人の EM 力を向上させる機会にしよう。そのためには書籍「愛と微生物の全て(ヒカルランド刊)」、「日本の真髓(文芸アカデミー刊)」を繰り返し読んで理解を深めてほしいこと。

基本に立ち返ることも大切であり、品質の良いEM 活性液を作るための様々な工夫についてもお話をされました。また、EM を施用した場のエネルギーを効率よく活用するための結界づくりの方法もパワーポイントで詳しく説明頂きました。

さらに、昨年出版された「微生物さんのパワーを引き出すのはあなた(野本ちずこ著)」には、直ぐに役立つ実践例が数多く記されていることから、読んで下さいとのことでした。

質問コーナーでは、塩の使い方について、側溝等への整流ブロックの使い方、大規模牧草地での結界づくりの方法、ホルミシス効果について質問があり、それぞれについて詳しい解説を頂きました。

最後に、NPO ヴィヴイドリ-サポートセンターの代表であり福島県の U-net 理事でもある武藤麻央様より、福島が有機の里になるように、今回の懇談会で学んだことを実践し個々の能力を上げていきたいと思いますのご挨拶を頂き閉会となりました。

今回初めてインターネット回線をつないでの懇談会となったことから、前日より会場と沖縄とのネット環境の確認、カメラ・マイク・プロジェクターの調整、パソコンの画面共有操作の確認等を実施しました。当日は、一部画像や音声の乱れもありましたが、最後まで支障なく進めることが出来ました。運営に際し、ご協力頂いた EM 研究機構スタッフの皆様に感謝いたします。



写真:リモート開催された EM 技術懇談会の様子